

事業成果報告書

※後日、フォーマットをメールで送信いたしますので、次のアドレスにメール添付でお送りください。

竹村和子フェミニズム基金 <t-fund@npo-ochanomizu.org>

1. 個人または団体名（団体の場合は代表者名も記入）

表現の現場調査団

（代表者名： 笠原恵実子）

2. 研究または活動のテーマ（課題名）

表現分野で学ぶ学生を対象としたハラスメント防止のための啓発教育の実践

3. 助成額

400000 円

4. 実施期間

2021年 7 月 ～ 2022 年 6 月

5. 実施状況

1、表現分野の学生に向けたリーフレットの制作

表現の現場調査団は、表現の現場におけるハラスメント実態調査を行い、その結果をもとに「表現の現場調査団ハラスメント白書 2021」を発表している。

https://www.hyogen-genba.com/files/ugd/c3e77a_15219b300d174ba28d9c25570b25bf96.pdf

185ページにも及ぶ「表現の現場調査団ハラスメント白書 2021」の中から、貴財団基金によって、ハラスメントとは何か、どのような対策や相談窓口があるか、といった部分を抜粋し、イラストを取り入れたB5四つ折りサイズのリーフレットを制作し、表現分野を学ぶ学生を対象とし頒布することとした。申請当初は2022年春の配布予定だったが、コロナ禍の影響で、多くの教育機関の入学式が縮小、リモート化、中止となる状況もあり、2023年度春配布と予定を変更し、継続してリーフレット制作を行った。現在その内容やデザインは確定し発注を終え、配布時期に合わせて開始する予定である。またそれに合わせてPDFにてウェブ上で公開を予定している。

6. 事業成果と自己評価

表現系教育機関の学生に向けたハラスメント対策リーフレットは、一般的な知識に加え、特に表現系教育機関で起こりやすいハラスメント「テクスチュアルハラスメント（ジェンダーを理由に作品を不当に評価される）」や、「レクチャリングハラスメント（指導という名目で行われるハラスメント）」を掲載、ハラスメントから自分を守るための知識共有を促している。若い学生たちが、こうした表現分野における特徴的ハラスメントを知識として得ることで、初元的ハラスメント経験を未然に防ぐことはもちろんのこと、卒業後の彼らのキャリアにおいても、ハラスメントに対して受動的になってしまうことを防ぐことに繋がっていく。コロナ禍の影響により、配布が1年ずれることを余儀なくされ非常に残念ではあるが、その分編集により多くの時間をかけることができ、結果満足のいくリーフレットとなったと考える。リーフレット配布後の講習開催についても、調査時間が長い分意味のある講習になると考える。

7. 提出成果物

・リーフレット（今後印刷予定）